

3

「こども食堂・フードパントリー 開設簡易ハンドブック」

(2021年7月改訂版)



地域での子どもたちの生活をよく知る
小児科医監修

こども食堂・ フードパントリー 開設

簡易ハンドブック

2021年7月改訂版

発行者 : 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

協力 : 金子淳子(小児科医・みんなの食堂主宰者)

監修者 : 藤岡雅司(小児科医・ふじおか小児科院長)

はじめに

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、全国でこども食堂などの居場所の開催が難しくなっています。他方、「気になる子どもを放置できない」と今でも開催を継続している人たちもいます。また今後、地域の学校等の再開に伴い、居場所の再開を検討する人たちも増えてくるものと思います。

「開催か休止か」に正解はなく、私たちは主宰する方々が悩み抜いた末に出されたすべてのご判断を尊重します。同時に、開催の意向をもつ団体が内外の不安の声に押し切られて断念することがないようにしたいとも思っています。

そのため今回、感染症対策にも詳しい小児科医の先生の監修で本ハンドブックを作成しました。開催の可否について検討される際にご活用いただくとともに、開催するかどうかを団体内で協議するとき、地域の方たちに開催についてのご理解をいただきたいとき、自治体と意見交換するとき、ご活用いただければ幸いです。

なお、緊急に作成することから、本ハンドブックはあくまでも暫定的なもので、今後の流行状況により変更される可能性のあること、ご了承ください。

むすびえ理事長 湯浅 誠

監修者より

新型コロナウイルスの流行によって、日本中、いや世界中の子どもたちには多くの制約が強いられています。流行の真っ只中で患者さんが急増している国や地域では、ある程度は仕方のないことでしょう。

しかしながら、新型コロナウイルスだけに目を奪われて、リスクをすべて排除するという生活が、子どもたちにとって望ましくないことは言うまでもありません。お勉強をすること、友だちと遊ぶこと、そして何より、楽しい食事をとること。これらは、子どもの権利であり、その健やかな成長にとって必要不可欠なものばかりです。

子どもという存在は、地域社会の未来であり、夢であり、希望です。子どもたちは日々成長を続けます。子どもたちの「今」という時間を大切にするため、正に今できることを、まず実行していきましょう。どのような状況にあっても、大人の知恵と工夫でできることはたくさんあるはずです。

このハンドブックが、そのための小さな力になればと願い、監修を担当させていただきました。新型コロナウイルス感染が終息し、子どもたちの元気な姿が町中に戻るまで、みんなで力を合わせてがんばりましょう。

監修者 藤岡 雅司

小児科医。富田林医師会感染症対策委員会委員長、大阪小児科医会感染症対策委員会委員、日本外来小児科学会予防接種委員会副委員長、同アドボカシー委員会委員長、日本小児科医会公衆衛生委員会委員、日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会委員

こども食堂

の開催について



手洗いイメージ(東京・ふくろうはうす)

みんなや食堂の対策

- 1 換気**
- 2 間隔を空ける(席数を減らす)**
- 3 (素手で)触らない**
触る時は してから
- 4 持ち帰り用のお弁当を準備**
- 5 導線を分ける**

マスクを着ける
など、スタッフ側だけでなく、一人ひとりが気をつけることが大切だね

手洗いもできるよ!

みんなや食堂レポート漫画3月25日号(この時点での県内の患者発生5名)

(みんなや食堂@山口県宇部市の対策例(みんなや食堂提供))

1 開催準備段階

1

開催に際しては会場のある地域（小学校及び中学校区域など）における流行状況などを十分に勘案して決定する。

- ① 緊急事態宣言が発出されていても一様に開催できないわけではない。
- ② 地域の保育所、幼稚園、こども園、小学校、中学校などで子ども間の感染が報告されている場合（職員間の感染は除く）、屋内会場での開催は控える。

2

開催告知に際し、以下に該当する人は参加できないことを事前に十分に知らせる。

- ① 感冒症状がある人
- ② 熱のある人（小児：37.5℃以上、成人：37.0℃以上）
- ③ 同居家族や職場などに「濃厚接触者」や「健康観察対象者」がいる人
- ④ 2週間以内に海外から帰国した人、及びその同居家族
- ⑤ 基礎疾患（心臓病、糖尿病、呼吸器疾患など）のある成人

3

スタッフの場合でも、60歳以上の人は、参加者との直接の接触をできるだけ避けるよう留意する。ただし、ワクチン接種2回目を完了して2週間経過した60歳以上の人に対してはこの限りではなく、他の参加者と同様に参加していただいて構わない。また、12歳以上の参加者に対して、自身を守るため、他の参加者を守るために、ワクチン接種を推奨している

4

原則としてスタッフ（ボランティアも含む、以下同じ）はもちろん、参加者も小学生以上ではマスク着用で来場するよう告知し、手指消毒を徹底するため、マスクと擦込式アルコール消毒液を用意する。

5

スタッフは、日頃から同居家族以外での「密閉・密集・密接」を避け、不要不急の外出を控えると共に、健康状態の維持に留意する。

6

クレームやトラブルに対して、齟齬のない説明など適切な対応に当たる説明責任者を前もって決めておく。

2 開催当日

会場準備

1 開場まで待機する人たちのために「密閉・密集・密接」とならないよう十分な広さで換気できる場所を準備し、【①開催準備段階・2の①～⑤】に該当する人は参加できない旨を掲示する。

2 適当な数量のマスク、及び擦込式アルコール消毒液を用意しておく。

3 会場は、可能な限り「密閉・密集・密接」を避けるようなレイアウトとなるよう留意する。参加者が対面したり、混雑が生まれたりしないよう、来場から退場までの動線を工夫する。

4 参加者が取り分けをするビュッフェスタイルでの食事提供は行わない。調味料やドレッシング等を参加者同士が共有して使用しないよう調理の際に配慮する。

スタッフとして

1 【①開催準備段階・2の①～⑤】に該当する人は会場には来てはならない。60歳以上のスタッフは参加者との直接の接触をできるだけ避けるよう留意する。ただし、ワクチン接種2回目を完了して2週間経過した60歳以上の人に対してはこの限りではなく、他の参加者と同様に参加していただいて構わない。

2 開催当日の運営（会場設営、案内、調理、配膳等）に関わるスタッフは、可能な限り集合時に体温測定（できれば皮膚に触れないタイプの体温計を用いる）と健康確認をおこなう。体温が37.0℃以上の人は速やかに帰る。

3 当日の運営スタッフは準備段階よりマスクを着用すると共に、必要に応じて、石鹸による入念な手洗いや擦込式アルコール消毒液による手指の清潔に努める。

2 開催当日

参加者に対して

- 1 開場までの待機場所で、可能であれば参加希望者の体温測定（できれば皮膚に触れないタイプの体温計を用いる）と健康状態などの確認をおこなう。
- 2 【①開催準備段階・2の①～⑤】に該当する人は参加できないことを、説明責任者から懇切丁寧に説明して理解していただく。なお、会場まで来て参加できない人に対しては、弁当などを渡して帰ってもらうことなどを検討しておく方が望ましい。
- 3 小学生以上の参加者についてはマスク着用とする。マスクを持参していない場合は準備していたマスクを提供する。
- 4 入場前に全員に対して擦込式アルコール消毒液による手指消毒をおこなう。乳幼児の場合は付添いの成人が擦込むようにする。
- 5 速やかに会場に誘導する。原則として座席は移動しないよう説明する。
- 6 不特定多数の参加がある場合は、参加者名簿を作成し、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のダウンロードを推奨すると共に、人数制限や時間制限などを行い、密集を回避している。

その他

- 1 人が大勢集まる場所で楽しい雰囲気するとき、子どもは当然ながらはしゃぐものである。そのような子どもの特性を考えれば、過度に制限し過ぎるのも好ましくない。
- 2 できるだけ多くの地域住民を運営側に巻き込むよう心がけることが、リスク管理としては最も重要であることをスタッフ全員で共有しておくことが望ましい。

food pantry

フードパントリー

の開催について



提供・チャイルドケアセンター



提供・フードバンク八王子

1 開催準備段階

1

開催に際しては会場のある地域（小学校及び中学校区域など）における流行状況などを十分に勘案して決定する。

- ① 緊急事態宣言が発出されていても一様に開催できないわけではない。
- ② 地域の保育所、幼稚園、こども園、小学校、中学校などで子ども間の感染が報告されている場合（職員間の感染は除く）、屋内会場での開催は控える。

2

開催告知に際し、以下に該当する人は参加できないことを事前に十分に知らせる。

- ① 感冒症状がある人
- ② 熱のある人（小児：37.5℃以上、成人：37.0℃以上）
- ③ 同居家族や職場などに「濃厚接触者」や「健康観察対象者」がいる人
- ④ 2週間以内に海外から帰国した人、及びその同居家族
- ⑤ 基礎疾患（心臓病、糖尿病、呼吸器疾患など）のある成人

3

スタッフの場合でも、60歳以上の人は、参加者との直接の接触をできるだけ避けるよう留意する。ただし、ワクチン接種2回目を完了して2週間経過した60歳以上の人に対してはこの限りではなく、他の参加者と同様に参加していただいて構わない。また、12歳以上の参加者に対して、自身を守るため、他の参加者を守るために、ワクチン接種を推奨している

4

原則としてスタッフ（ボランティアも含む、以下同じ）はもちろん、参加者も小学生以上ではマスク着用で来場するよう告知し、手指消毒を徹底するため、マスクと擦込式アルコール消毒液を用意する。

5

スタッフは、日頃から同居家族以外での「密閉・密集・密接」を避け、不要不急の外出を控えると共に、健康状態の維持に留意する。

6

クレームやトラブルに対して、齟齬のない説明など適切な対応に当たる説明責任者を前もって決めておく。

2 開催当日

会場準備

1

開場まで待機する人たちのため「密閉・密集・密接」とならないよう十分な広さで換気できる場所を準備し、【①開催準備段階・2の①～⑤】に該当する人は参加できない旨を掲示する。

2

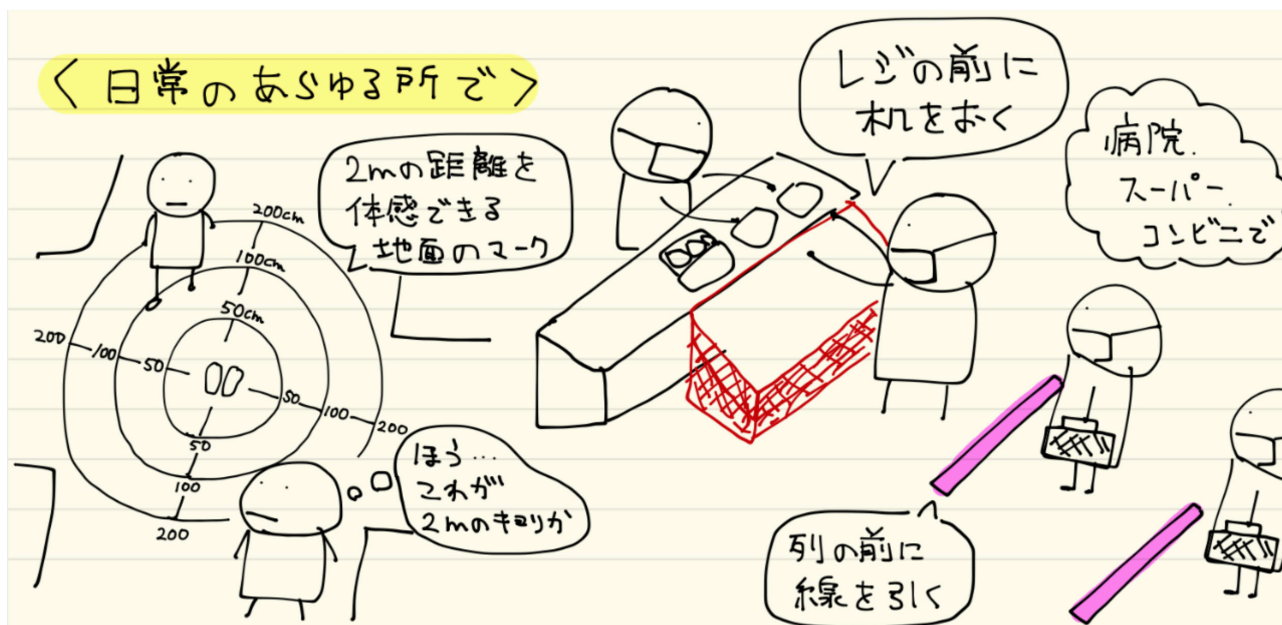
適当な数量のマスク、及び擦込式アルコール消毒液を用意しておく。

3

会場は、可能な限り「密閉・密集・密接」を避けるようなレイアウトとなるよう留意する。参加者が対面したり、混雑が生まれたりしないよう、来場から退場までの動線を工夫する。

4

食材提供場所（カウンターなど）で、参加者との距離をとる（2m）、スーパー・コンビニのレジのようにフィルターを貼って飛沫感染を防止する、列に並ぶ際には間隔を空けるなどの工夫をおこなう。



（諏訪中央病院総合診療科の玉井道裕医師が作成した「新型コロナウイルス感染をのりこえるための説明書（全国版）」より）

2 開催当日

スタッフとして

- 1 【①開催準備段階・2の①～⑤】に該当するスタッフは会場には来てはならない。60歳以上のスタッフは参加者との直接の接触をできるだけ避けるよう留意する。ただし、ワクチン接種2回目を完了して2週間経過した60歳以上の人に対してはこの限りではなく、他の参加者と同様に参加していただいて構わない。
- 2 開催当日の運営（会場設営、案内、調理、配膳等）に関わるスタッフは、可能な限り集合時に体温測定（できれば皮膚に触れないタイプの体温計を用いる）と健康確認をおこなう。体温が37.0℃以上の人は速やかに帰る。
- 3 当日の運営スタッフは準備段階よりマスクを着用すると共に、必要に応じて、石鹸による入念な手洗いや擦込式アルコール消毒液による手指の清潔に努める。

参加者に対して

- 1 開場までの待機場所で、可能であれば参加希望者の体温測定（できれば皮膚に触れないタイプの体温計を用いる）と健康状態などの確認をおこなう。
- 2 1-②に該当する人は参加できないことを、説明責任者から懇切丁寧に説明して理解していただく。なお、会場まで来て参加できない人に対しては、弁当などを渡して帰ってもらうことなどを検討しておく方が望ましい。
- 3 小学生以上の参加者についてはマスク着用とする。マスクを持参していない場合は準備していたマスクを提供する。
- 4 入場前に全員に対して擦込式アルコール消毒液による手指消毒をおこなう。乳幼児の場合は付添いの成人が擦込むようにする。
- 5 速やかに会場に誘導する。原則として座席は移動しないよう説明する。